



次回は、7月13日(水)昼 マギル大英語短期研修説明会に50人参加

来年春にカナダ・マギル大で実施する英語研修の説明会が17日昼に人文学部で開催された。説明会には、理学部、工学部、農学部、教育学部から約50人が参加、学生らは、シュミット教員、シャノン教員の英語によるプログラムの説明に聞き入っていた。



次回説明会は、7月13日昼の予定で、第1回と同じく人文C棟406で実施する。

海外留学人気を反映して説明会には、昨年の2倍を超える50人超が集まった。冒頭、カナダ出身

のシュミット教員が、パワーポイントのスライドで、マギル大が本拠とするカナダのフランス語圏であるケベック州最大の都市のモントリオール市の紹介をするるとともに、カナダ国内の大学で最も高いランキングのマギル大の施設や学部、研修の中身を紹介した。

冬は、最低気温がマイナス20度前後まで下がるほどの厳しい寒さを伝えるスライド写真に学生らは、戸惑いの表情をみせていた。

これに続き、プログラムの責任者である古賀教員が、4週間のわたり、午前9時から午後3時まで続けられる①カナダ文化を知る講義②発音矯正法③モニターさんとの見学会などで構成されるプログラムの概要を紹介した。

参加費用は、50万円。帰国直前に訪問するナイアガラの滝やトロント1日観光に参加すれば、5万円の追加となる。締め切りは、10月末。

昨今の原油価格の下落で、旅行会社に徴収するサーチャージが激減しており、今年のプログラムでは、返還金があったことなどが紹介された。

マギル大の方針で、一昨年度から慶応大学などの学生がプログラムに参加し、一緒に講義を受ける形に変わった。この結果、これまで続けていた教員の引率を取りやめる案が浮上している。

この関連で学生の意向を確かめるため、説明会に参加した学生を対象に今後のプログラムの運営についてのアンケートを実施した。結果は、半数弱が、引率教員の廃止に抵抗感を持つものの90%以上が、「引率がなくても研修に参加する」との回答が寄せた。

これに伴って、やはり取りやめの可能性が出ている研修終了後の旅行についても、「構わない」(32.5%)、「仕方がない」(55.0%)が多数を占めた。

(終)

